

サイト設計に必要な配色知識

「デジタル色彩検定」新設

日本カラーイメージ協会（理事長・南雲治嘉 デジタルハリウッド大学教授）は、デジタルコンテンツの制作者向けの色彩検定を新設する。ウェブサイトの設計や商品企画などに必要な配色技能などを評価する検

一協
ラジ
カメ
本メ
日イ

定で、十一月に第一回となる試験を実施する。能力別に四段階の試験を用意、合格者には一―三級などの資格を与える。従来の色彩検定では不十分と判断し、独自資格を設ける。



ウェブ制作者

11月3級試験

「デジタル色彩検定」三級試験はネット上では基本的な色彩の知識などを問うほか、配色能力、色もたらす心理的な効果などを考慮した企画立案の技能などを試す。試験はまず十一月に三級の試験を実施し、千人程度の受験者を見込む。来年以降の試験実施時期などは今後詰める。

CGやウェブサイトなどの制作者向けの色彩検定は日本初（26日、東京・秋葉原）

検定料は八千円（三級者）から二万円（公認指導者）。三年後には二万人以上の受験者を見込んでいる。

現状、色彩検定には全ががあると判断した。今年七月に立ち上げた。国服飾教育者連合会の検定を主催する日本カラーイメージ協会は南雲治嘉教授らが発起人となって今年七月に立ち上げた。デジタルコンテンツに対する色彩学を普及させるのが狙いだ。

現状、色彩検定には全ががあると判断した。今年七月に立ち上げた。国服飾教育者連合会の検定を主催する日本カラーイメージ協会は南雲治嘉教授らが発起人となって今年七月に立ち上げた。デジタルコンテンツに対する色彩学を普及させるのが狙いだ。